

令和7年度環境学習フェスタ開催報告

令和8年2月14日の土曜日に、「令和7年度環境学習フェスタ」を開催いたしました。

イベント当日は、メインプログラム「環境学習成果発表会」や土浦市主催による「高校生霞ヶ浦ミーティング」が多目的ホールにて開催されたほか、館内では市民団体等による環境に関する体験・学習・展示等のブース出展、屋外では地元の飲食店によるケータリング出店等があり、全体で2,000名の方が来場されました。

環境学習成果発表会では、県内小中高校の児童・生徒（団体・個人12組）による日頃の環境学習や環境保全活動に係わる発表が行われ、来場者の皆様にも環境への関心が高まる契機となったほか、児童・生徒同士や来場者間で盛んな質疑応答が繰り広げられ、大変有意義な発表会となりました。

また、昨年度に引続き、ポスター発表も実施され、当センターの研究職員も交え、活発な意見交換が行われました。

市民団体をはじめとする17のブースが出展した館内では、多くの来場者で賑わい、楽しみながら環境について学んでいる姿を見ることができました。

センターパートナーの皆様には、「六角返しと万華鏡工作を楽しもう！」及び「プラスチックねんどで霞ヶ浦のプランクトンを作ろう！」のブース出展にご協力いただき深く感謝申し上げます。

また、ご当地キャラクターとして、近隣4市より、つちまる（土浦市）、かすみがうにゃ（かすみがうら市）、ひぬ丸くん（茨城町）、とねりん（利根町）が登場し、来場者の皆様に楽しいひと時を提供しました。

今回の環境学習フェスタでは、上記のほか、屋外に飲食ケータリングカーも出展するなど、イベント全体として大盛況のうちに無事に幕を閉じることができました。

次年度もパートナーの皆様には、引続きお力添えいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



（R7 センター職員 坏）

「パートナー霞ヶ浦クリーンUP 自主活動」 令和7年度報告、令和8年度活動計画

□令和7年度活動報告

我々ができる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに、パートナーやセンターのご協力のもと、霞ヶ浦湖岸（2.3 km）のゴミ拾いと、クリーンアップの啓蒙活動を実施していますので、その活動結果を報告いたします。

令和7年度は天候に恵まれず、特に前半は「雨天」「猛暑の時期の熱中症予防」での中止が続き、年度では計6回の中止を余儀なくされました。



4ヶ月ぶりに活動再開できた10月には、写真のようにいつもの月を上回る量を拾い集めました。しかし、これでも6～7年前の一月の量と同じ位で、確実に捨てられる量は減っています。このままさらに無くなってくればよいのですが。

活動時には釣り人や散歩中の方たちへの挨拶も心がけ、クリーンアップへの協力をお願いしています。

先日釣り人から「釣ったアメリカ鯰はどうしよう？」と訊かれました。「放流は困るので、持ち帰るかリリースしないで処分して。」と伝えました。ゴミ以外の、釣り上げられた外来生物の回収処置も、対応する仕掛けが必要ですね。「外来魚回収ポス

ト」があるとも聞きますが、美味しく食べられるサイクルが出来ればいいのと思います。

そのような中でも、3月の活動時に遠くに富士山が見え気分爽快でした。美しい環境は私達の宝物だと感じた一瞬でした。これからも多くの方が環境に関心を持っていただけるよう、活動を続けていきたいと思っています。

令和7年度活動実績

・活動日：毎月1回、原則第3日曜日 年間6回活動できました。

5/18・10/19・11/16・令和8年1/25・2/15・3/15

・時間：午前9時～11時頃

・回収総量：33袋（回収の内訳：可燃→22袋 不燃→11袋 令和7年度活動6回の合計。）

・参加者延人員： 20人

□令和8年度活動計画

令和8年度は、下記の日程での活動を計画しています。（原則第3日曜日ですが、一部の月は第2・第4になります。）

4/12・5/24・6/21・7/19・8/16・9/20・10/18・11/15・12/20・1/17・2/21・3/14

環境の維持改善のためと、自然の中での活動で心身リフレッシュのため、出掛けませんか。

皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー 佐伯）

令和7(2025)年度後期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動報告

水辺の代表的な植物の花や実を中心に観察した。掘削3年目の池周囲で植生の遷移が進み希少種が減少した。整備直後のB区水際でナガエツルノゲイトウ(特外)が繁茂中。希少種の生育地で外来種等の抜き取りと枯れ草刈り、観察路の整備をした。

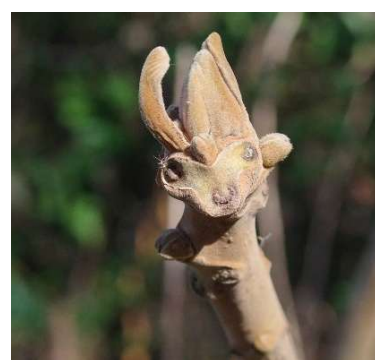
月/日	ABEFGHIJKL 区観察概況 (I B・II: 絶滅危惧 I B 類・同 II 類, 準: 準絶滅危惧, 特外: 特定外来生物)
R7 10/08 (15)	ヨシやススキが開花しセイトカヨシ(県準)や オギ が出穂した。サクラタデやヤナギタデ等イヌタデ属の花が満開で ゴキツル の花と実が見られた。カナムグラやヌルデの雄花や雌花、ムクノキ、ツタ、ミツバアケビ等の実を観察した。ナガエツルノゲイトウ(特外)のテラス状繁茂が拡大して目立つ。アレチウリ(特外)の雄花と雌花が見られ、若い果実が付いていた。H区ヤナギトラノオ(県II)生育地でセイトカアワダチソウ等の抜き取りをすると共に観察路のノイバラ等を伐採した。
11/12	白い オギ の果穂が目立った。ミゾソバやウナギツカミ等にも果実ができていた。カントウヨメナやクコの花が見られ、ノブドウ、カラスウリ、アマチャヅル等が実を結んだ。ゴンズイやツルウメモドキの熟した実が裂けて種子が見えた。果穂を付けたヌカキビ、フシゲチガヤ、セイバンモロコシが紅葉していた。黄葉したサヤヌカグサに僅かに果実が残っていた。
12/10	葉や茎を枯らしたヨシ、オギ、コガマ、セイトカアワダチソウ等が盛んに果実散布していた。ジャヤナギの葉が半分程、エノキやイヌザクラがほぼ落葉した。落葉した オニグルミ で動物の顔に見える冬芽と葉痕が見られた。タンキリマメ(県絶滅危惧II類)やヘクソカズラ等の実が見頃だ。特定外来生物のナガエツルノゲイトウやオオフサモが越冬態勢に入った。
1/07	イヌコリヤナギ、カワヤナギが芽鱗を外し、ふわふわした白い毛の蕾を出した。日当たりのいい畦や法面でヒメオドリコソウやオオイヌノフグリが開花した。センニンソウの果実、アカメガシワの冬芽、ハルジオンのロゼット等様々な越冬形が見られた。 オモト が光沢のある常緑葉と赤い実を付け、花序を広げたヤツデと共に新年を祝っているようだった。
2/04 (18)	オランダミナグサが開花し、コハコベは満開だった。寒中にセイトカヨシ(県準)の葉がほとんど枯れ、穂は果実散布済みだった。地上部が立ち枯れ状態のヨシや全草赤褐色のマツカサススキ・タコノアシ(国県準)はまだ果実や種子を散布中だった。クサヨシやイヌムギの根出葉が伸長した。 アケビ 等の特徴がある木本類の樹皮、冬芽や葉痕を観察した。ヤナギトラノオ(県II)・ノウルシ(国県準)の生育地H・G区で外来種等の抜き取りと草刈り、観察路の整備をした。
3/11	ノイバラやマユミが展葉し、タチヤナギの冬芽が動き出した。イヌコリヤナギ、カワヤナギ、 オノエヤナギ は開花して葉芽も開き、緑が多くなった。ノウルシ(国県準)の芽が伸び出し、川尻川沿いのヤブツバキも開花した。ここに群生する丈の高いササ類がキボウシノとなった。オオフサモ(特外)とオオバナミズキンバイ(特外)の新しい茎と葉が伸び出した。



10月**ゴキツル**(ウリ科)蔓性1年草
花序基部に雌花1個、蓋果上半部に棘



11月**オギ**(イネ科)多年草
小穂に芒がなく基毛はススキより長い



12月**オニグルミ**(クルミ科)落葉樹
冬芽は裸芽で褐色の短毛密生



R.8.1月**オモト**(キジカクシ科)常緑多年草
縁起物で古典園芸植物だが全草有毒



2月**アケビ**(アケビ科)蔓性落葉木本
葉痕が密生する短枝の先に鱗芽



3月**オノエヤナギ**(ヤナギ科)落葉樹(左: ♀, 右: ♂)
展葉前に開花し子房に短柄、雄蕊は2本

令和8（2026）年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」活動計画

環境学習推進活動として、センター主催の「霞ヶ浦自然観察会(植物)」において補助活動をすると共に「いきもののにわ」の整備・観察学習活動を行う。これらに資するため、パートナー自主企画活動の「湖岸植物定点観察」を行う。

霞ヶ浦自然観察会は霞ヶ浦やその流域が育む豊かな自然や生き物に触れて楽しみながら学び、霞ヶ浦に対してできることを共に考えて行く目的で実施される。

湖岸植物定点観察は自然再生事業地を含む湖岸(下図)で、環境の変化等が植物相に及ぼす影響を見るため原則毎月第2水曜日に実施する。水辺の代表的な種、絶滅危惧種等の希少種、特定外来生物等は年間を通して生育状態や生活史、分布状況や消長等を継続観察して記録する。毎月、この記録と共に特徴のある生育形、花や実、冬越しの様子等の写真に説明を付けて2階展示コーナーに掲示する。また、これらを観察学習の資料として活用する。これまでの観察結果を活かして、ヤナギトラノオやノウルシ等希少種の保全活動をすると共に必要な観察路整備を行う。

各区の経過と注目種

写真：霞ヶ浦河川事務所
挿入地図：川尻川周辺

(希少種・外来種等の略語表記)
I B, II, 準：絶滅危惧 I B 類, II 類,
準絶滅危惧
特外：特定外来生物



A 区：(H19～再生工事)
北小池オニナルコスゲ,
南小池サジオモダカ(県
準), 南池ミズヒマワリ(特外)
(R2.3 改修工事施行)弁天
前低地笹藪跡ジョウロウス
ゲ(国 II 県準), カサスゲ,
(～R7.11 駐車場整備)
落葉樹林：フキ, シラスゲ

B 区：(H25.3 引堤工事完了)(R3.3 月幅 3m 低地盤下げ)(R5～R7.2 低地草刈)旧堤セイタカヨシ(県準), ヤブヘビイチゴ, ハッカ, アレチウリ(特外), ナガエツルノゲイトウ(特外)(～R7.11 CR ゾーン整備)

HI 区：(H27-29 再生工事)以前～ヤナギトラノオ(県 II), ジョウロウスゲ(国 II 県準), ミクリ(国県準), ノアズキ(県準), セイタカヨシ(県準), オニナルコスゲ, ドクゼリ, マツカサススキ, 工事に降アサザ(国準県 II), カンエンガヤツリ(国 II 県準), タコノアシ(国県準), ウスゲチョウジタデ(国県準), ミズアオイ(国県準), カワデシヤ(国県準), ササバモ(県 II), I 区ヤナギトラノオ(県 II) R6.5 ノニガナ(県準), フトイ, ヒロハノコウガイゼキショウ, ヒメミズワラビ, コウキヤガラ, ミズヒマワリ(特外), オオフサモ(特外), オオバナミズキンバイ(特外:R2.7 侵入 R5.12-R6.1 掘削, 遮光) R6.11 田村蓮田確認 ナガエツルノゲイトウ(特外:R4I 区 R5H 区)

EF 区：ノウルシ(国県準) E 低減 R5.4, F 裏法出 R6.4, セイタカヨシ(県準), ヤワラスゲ, ハンゲショウ, イヌドクサ(H29-30: 広範囲の皆伐)アレチウリ(特外), ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.8 初認 R5.7 盛土際 R6～抜取少数維持) F 区 R6 水際少数抜取

G 区：ノウルシ(国県準), ヌマアゼスゲ(国 II 県 I B:R1.6 初認)(H31.1 浚渫土撒出), マツモ(県準:R2.11 初認～水路), カンエンガヤツリ(国 II 県準:浅瀬多数 R5.9～), ナガエツルノゲイトウ(特外:水際 R5.8 初認 R6 浅瀬繁茂)

J 区：(H15 整備ウェットランド消波堤)ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.7 初認～生育地拡大)

K 区：(R4 法面伐採 R5 皆伐盛土撤去整地～R6.5 月)裏法アサマスゲ(国準県 I B), 畦オグルマ, 川尻川沿タンキリマメ(県 II), 整地後低地ジョウロウスゲ(国 II 県準), アレチウリ(特外), 水際ナガエツルノゲイトウ(特外:R5.6 初認 R6 水際テラス～帯状繁茂)

L 区：タンキリマメ(県 II), キボウシノ川尻川沿裏法, オオフサモ(特外)水路・蓮田
(日程) 9:00(冬期 9:30)集合 (保全活動: 9:30 集合～11:00 現地解散)
～12:00 現地 12:15～昼食 12:45～13:00 新出種・希少種等確認
13:00～14:00 記録整理(植物名合わせ・展示物選出)

「いきもののにわ」整備活動の予定

原則毎月第4水曜日 10:00～11:30 (集合 作業確認 作業・休憩 片付け)
作業内容: 除草, 間引き, 移植, コンテナ・プランターの整理, 名札整備等



第2回霞ヶ浦自然観察会 R7.6.28



「いきもののにわ」整備活動 R7.8.27



湖岸植物定点観察 R7.4.9G 区



観察路整備 R8.2.18H 区

湖岸植物定点観察の年間予定

活動年月日	原則第2水曜日
R8 4/8	9:00 集合
5/13	〃
6/10	〃
7/8	〃
8/5	(第1水曜日) 〃
9/9	〃
10/(7),14	(保全活動 9:30 集合)“
11/11	9:00 集合
12/9	9:30 集合
R9 1/13	〃
2/(3),10	〃 (保全活動)
3/10 3/24 (庭整備終了後～)	9:00 集合 同好会打ち合わせ (R8 年度まとめ・新年 度の活動計画)

令和 7（2025）年度後期図書活動報告及び令和 8 年度図書活動計画

1、文献資料室の図書紹介文の作成

活動日は原則毎月第 2、第 4 金曜日です。令和 7（2025）年度後期は計 11 日活動しました。紹介本は、新規購入図書（寄贈図書を含む）を中心に 48 冊でした。紹介本そのものはセンター 2 階交流サロンの「パートナーが選んだおすすめの本コーナー」に有ります。どうぞご覧下さい。また、「図書紹介本一覧」は、次号香澄第 47 号令和 8 年 7 月 31 日発行に掲載致します。

令和 8 年度の活動計画は、令和 9 年 2 月の活動日が第 1 金曜日、令和 9 年 3 月の第 4 金曜日が活動中止以外は、令和 7 年度と同じ内容です。

尚、令和 8 年度の活動計画は、センターの空調設備更新工事に伴い変更になる可能性が高いことを付け加えます。



図書紹介活動

参加パートナー（浅野、高石、古田、小松）

2、読み聞かせ活動

文献資料室所蔵の絵本、紙芝居等の中から自然保護や水質汚染、地球温暖化など環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動日は原則毎月第 4 土曜日の午前 11 時～／午後 2 時～の 2 回です。令和 7（2025）年度後期の活動は 6 日間。午前、午後の計 12 回の実演でした。参加者は大人 67 人、子ども 60 人の計 127 人でした。参加者にはパートナー手作りの「しおり等」をプレゼントしています。また、参加者の増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れています。

令和 8 年度の活動計画は、活動日が 6 月、11 月、12 月、令和 9 年 3 月が第 3 土曜日に、令和 8 年 8 月が 29 日の第 5 土曜日に変更以外は令和 7 年度と同じ内容です。

尚、令和 8 年度の活動計画は、センターの空調設備更新工事に伴い変更になる可能性が高いことを付け加えます。



読み聞かせ活動



マジック実演

参加パートナー（浅野、森田、戸嶋、小松、江畑、岡田、出田、）

（パートナー 浅野）

第 23 回身近な水環境の全国一斉調査活動計画

本活動は平成 25 年 6 月の「第 10 回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。第 23 回（令和 8 年）で連続 14 回の参加となります。第 23 回身近な水環境の全国一斉調査は、下記 2 地点で東京・国分寺市の全国水環境マップ実行委員会事務局へ参加申込みをしました。調査内容は下記のとおりです。

- ・調査日（予定日）：令和 8 年 6 月 7 日（日）
- ・調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによる COD 測定、透視度、電気伝導度を調査。この他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ、川の変化についての意見（今と昔）の実施。
- ・調査地点：花室川（精進橋）、巴川（にのはし）の 2 地点です。



調査地点風景 花室川（精進橋）R7.6.8



巴川（にのはし）R7.6.8
(パートナー 浅野)

霞ヶ浦の河川 （その 2） 桜川上流域



(源流鏡ヶ池)

霞ヶ浦流域の代表河川としてあげられる桜川は、三つの顔を持つといわれている。まず、桜川市での古典に馴染む上流域、次に、筑西市・つくば市を流れる筑波山麓の田園風景を持つ中流域、そして、土浦市に入り、霞ヶ浦河口までの市街地を流れる下流域の様相といったところであろう。

今回は手始めに、上流域への散策を試みた。岩瀬駅から北東方向に山口地区があり、県道 289 号を山側に登っていくと、鉾柄峠の手前に小さな池がある。標識に鏡ヶ池との記載があり、これが桜川の源流。昨年 11 月、渇水期であった為か、水も少なく、水草の中に埋もれているという感じがした。この水草は河骨で絶滅危惧種とのこと。今年 3 月に再度訪れた時には河骨は枯れており、水はどんよりと濁っていた。池の山側の沢からわずかな清水の流れ込みがある。反対側にトレイニング堰が設置されており、道路下に流れ出している。源流の今の様子を垣間見た。



(桜川上流の小川)



(青木堰)



(塙世橋から下流方向)



(真壁雛飾り)

された瓢箪雛など、なかなか見応えがあった。

真壁の西側を下っていく桜川は、その後筑西市との市境を経て桜川市から離れ、川幅も大きくなって中流域となり、つくば市に入っていく。 以下次号へ

池の傍に表示板があり「みせみせぬ鏡ヶ池におしとりはみつから顔をならべてぞいる」と、矢木和歌抄が紹介されている。日本武尊の謂れもあるらしい。

桜川の上流域については、市商工観光課の案内書やパンフレットが整備されており、これらを見つつ、付近を散策した。源流から田畑に出た桜川上流は、小川として山桜と古典文学発祥の地である桜川市街地を通り抜ける。

まず、川の左側に、櫻川磯部稲村神社があり「つねよりも春べになればさくら川波の花こそまなくよすらめ」後撰和歌集の紀貫之歌碑、さらに、謡曲「桜川」の舞台でもあるとの表示も認められる。まさに古典の宝庫といえよう。

その先が名勝指定記念碑のある磯部桜川公園となる。「西の吉野 東の桜川」と称され、桜川のサクラは天然記念物に指定されている。11月に訪れた時には見物客もなく、静かな場所であった

(磯部稲村神社の桜)

が、桜の時期を待ち、3月下旬の桜まつりにも出かけてみた。山桜にはまだ早かったが、磯部稲村神社では見事な桜が迎えてくれた。

桜川は支流として布川・筑輪川・大川・泉川などが合流し、岩瀬あたりで南へと流れを変える。ここに二宮尊徳の指導によって造られた青木堰があり、更に、雨引観音の西側を下って、川幅も大きくなり、真壁地区付近へと流れていく。

今年3月2日、私は妻と真壁に向かい、「ひな祭」を見学した。県道7号線の桜川橋梁「塙世橋」の東側の一角で支流山口川の北側となるが、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。「真壁伝承館」を中心に登録文化財となっている古い家並みが102棟もあり、歴史の街である。丁度、各所でひな人形が飾り付けられて、見物客で賑わっていた。平日でもあり高齢の夫婦連れが多い。店や旅館、醸造所などに、段飾り、座敷飾り、吊るし雛など、時代物から粋を凝らした現代雛まで、多彩な雛の饗宴となっている。肌寒さを感じつつも、パンフレットを見つつ、散歩感覚で一巡した。書店の書籍棚の上に吊るした雛や、花を散りばめた座敷の奥の雛壇、暗い土蔵の中に明かりに灯

(パートナー 小松)

パートナー活動に参加して

霞ヶ浦環境科学センターは、調査研究や環境学習に加え、市民活動との連携や情報交流を担う拠点であり、パートナーはボランティアとしてセンター事業を支える重要な役割を担っています。私も活動に参加して半年が経ち、平日は難しいため週末を中心に、回数は多くありませんが、ECO フェスティバルや自然観察会、魚類の定点調査に参加してきました。パートナーの皆様は専門性の高い方が多く、自分にその役割が務まるのかと不安に感じることもありますが、この機会に魚類定点調査への参加について紹介したいと思います。

魚類定点調査は2008年から実施されており、現在は投網による採捕と水質測定が隔月で湖岸6地点において行われています。現場では職員やパートナーの皆様が息の合った動きで調査を進めており、その手際の良さと連携の取れた作業が印象的でした。私はまだ観察中心ではありますが、その流れを通じて調査の実際を理解し、霞ヶ浦の変化がこうした継続的な記録によって捉えられていることを実感しています。

小幡先生からいただいた長期データを概観すると、霞ヶ浦の生きものを取り巻く環境に顕著な変化が見られます。ワカサギは2008年の177個体から2025年にはゼロとなり、この十数年でほぼ姿を消しました。一方で、テナガエビは2025年に年間5,111個体と約10倍に増加し、ツチフキやアシシロハゼも増加傾向にあります。こうした変化から、魚類相の構成が大きく変わりつつあることがうかがえます。霞ヶ浦の魚類調査は、センターのほかに、国立環境研究所（以下国環研とする。）でも単一地点での長期観測が行われています。研究所のデータを確認すると、調査手法が異なるにもかかわらず、ワカサギの減少やテナガエビの増加といった共通の傾向が見られ、これらの変化が霞ヶ浦全体で起きている現象であることを強く感じました。



図1 魚類定点観測の様子



図2 調査終了後、
投網を日陰干している様子

国環研の調査は、限られた地点を継続的に追うことで精度の高い変化を捉えることができる一方、センターの調査は市民参加のもとで複数地点を継続して記録している点に特色があると感じております。多地点の調査をサポート等の市民参加で継続することは、湖全体の変化を把握するうえで重要であるとともに、調査に関わる人々が実際に湖の変化を体感し、環境保全の担い手が広がっていく点にも大きな意義があると感じています。もちろん、継続的にデータをとるためには、投網や水質測定機器などの道具の使い方を習得することに加え、機材の管理や安全への配慮、記録方法の共有も必要であり、決して簡単なことではありません。それでも、こうした手間をかけながら調査を続けていくことに、市民参加型調査としての価値があるのかもしれない。

私自身は専門的な知識・技術を持っているわけではありませんが、現場では分からないことを教えていただきながら理解を深め、気づきを記録することを心がけています。パートナー活動中にうかがったヨシ原の減少について調べる中で、その保全の重要性とともに人工的な

再生の役割も知り、湖の環境を維持する難しさを改めて実感しました。

魚類定点調査への参加を通して、霞ヶ浦の見方は大きく変わりました。今後もできる限り現場に足を運びながら、その変化を自分の問題としても捉え、自分なりの理解を深めつつ、センターの活動に少しでも関わっていければと考えています。

(パートナー 古谷)

新加入パートナーのご紹介（敬称略）

よしだ あきこ
吉田 明子

以前、水や空気などの検査をしていた関係で、霞ヶ浦の環境について学びたいと思い、申込みをさせていただきました。どうか宜しくお願いいたします。

おばた かずお
小幡 和男

この3月に退職した旧職員の小幡です。4月からはパートナーとして頑張りますのでよろしくお願いいたします。魚類・植物調査、自然観察会の補助などに参加させていただきたいと考えています。

あくつ たてき
坏 立樹

3年間大変お世話になりました。今度はパートナーとして微力ながらお力になれば幸いです。

かみやま あおば
加美山 碧巴

今年度からパートナーとして活動に参加し、センターを盛り上げていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

パートナーに関する新任センター職員の紹介

環境活動推進課係長 せん ば よし ゆき
仙 波 由 行

学校で理科を指導し、当施設を活用する中で、いつか働いてみたいと思っていました。大好きな自然や生きものと触れ合いながら、少しでも貢献できるようがんばっていきたいと思います。

環境活動推進課主事 みや ざわ さ や
宮 澤 沙 綾

今年度より環境活動推進課に配属となりました、宮澤沙綾と申します。

霞ヶ浦 ECO フェスティバル等のイベント運営を担当させていただきます。イベントは、みなさまの多大なるご支援とご協力により成り立つものと存じております。何かと至らぬ点もあるかと存じますが、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

環境活動推進課主事

た なか すず は
田 中 涼 葉

新規採用職員として、一日も早く業務に慣れ、センターおよび県民の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。何かと至らぬ点もあるかと存じますが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

環境活動推進課会計年度任用職員

くり す のぶ ひろ
栗 栖 宣 博

パートナーさんとの魚や植物の調査を通して今の霞ヶ浦の姿を見つめ、パートナーさんとともに観察会等で霞ヶ浦の自然の不思議や面白さ、そして大切さを伝えていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

「パートナー情報誌香澄」編集委員及び掲載原稿の募集について

香澄編集委員会では、パートナーの皆さんにパートナー活動やセンター事業に関する情報を発信するため定期的に「パートナー情報誌 香澄」を発行していますが、皆さんも香澄編集に携わってみませんか。興味のある方のご参加をお待ちしております。

また、香澄に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センター内での活動内容や、お住いの地域の話などなんでも結構です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、つぎのメールアドレスにご投稿願います。皆さんからのご投稿をお待ちしております。

[投稿先メールアドレス]

e-mail: hi.tarumi@pref.ibaraki.lg.jp

(霞ヶ浦環境科学センター環境活動推進課 樽見宛)

(香澄編集委員会)

<編集後記>+***

新緑の候、農家にとっては作付けの季節、中東の紛争でペルシャ湾からの船舶輸送が滞り、俄にオイルショックの様相を呈しています。

化石資源に依存し過ぎることが、私達の生活や環境を脅かすことを認識しつつ、それから脱却できない文明の中で我々は生きている。生活の糧である、全ての産業の原動力として石油は不可欠なものとなっています。

自然の恵沢であるべき農作物にとっても同様に欠かせない。それが永遠不変の資源でないことを思い知ることにならなければよいと願います。

国力を強化し、国民を守るためだとしても、利権を得よう、奪おうとする利己的な動機によるものであり、理解し難い行動であります。

国土を共有地と考え、そこから得られる資源を分け合うことはできないのか。文明がどれほど栄えようが、何れ廃れるのは人間のエゴなのだと気付く日は来るのだろうか。

地球はいったい誰のものなのか、少なくともホモサピエンスのものではない。

(パートナー 栗原)